



内水面研究所

内水面研究所だより

〒034-0041

青森県十和田市大字相坂字白上344-10

TEL 0176-23-2405

FAX 0176-22-8041

e-mail sui_naisui@aomori-itc.or.jp

HP <http://www.aomori-itc.or.jp>

活気ある青森県の内水面漁業を目指して

—創刊号によせて—

内水面研究所長 尾坂 康

内水面研究所長を拝命し、4月に赴任しました。内水面研究所には6年ぶりに戻ってきました。本年度から「内水面研究所だより」として内水面漁業関係者との関係をより一層緊密にするために情報を提供していくことにしました。年3回程度の発行を考えています。

地方独立行政法人青森県産業技術センター内水面研究所となり、県民、内水面漁業の視点に立った試験研究機関として、研究需要に素早く、かつ柔軟に対応し、研究成果創出の一層の早期化、技術支援・技術開発に取り組んでいきます。

内水面研究所は、明治34年に青森県水産試験場相坂鮭鱒人工ふ化場として創立以来、100年の歴史を持ち、数多くの試験研究の成果を上げてきました。特に、サケの種苗生産や放流技術の研究開発は、本県のサケ漁獲量を全国第3位に高めるなど「つくり育てる漁業」の推進に大きな成果をあげています。また、十三湖や小川原湖のシジミの資源管理、十和田湖のヒメマスの資源対策などの調査研究にも力を入れてきました。シジミは全国第2位の漁獲量となり、ヒメマスは観光資源としてなくてはならない存在となっています。青森県は、恵まれた自然環境の中で多くの河川湖沼を有し、豊かな淡水魚介類が生息しています。このような豊かな内水面の漁場環境を保全するための調査にも取り組んでいます。また、外来魚、カワウ、冷水病対策等、克服すべき課題がたくさんありますが、これらを解決し、着実に前進することが求められています。そのための基礎的な調査研究を早く進め、成果を示せるように努力して参ります。資源を持続させ、経営の視点で、ニジマスの品種改良やサクラマス等の生産技術の向上、産官学連携による研究開発の推進など実践的な試験研究を進めていきたいと考えています。山と海をつなぐ川（内水面）の役割を再認識し、職員一同内水面漁業の振興に尽力していきますのでどうぞよろしくお願いいたします。



資源造成のためにさくらます・ひめます放流行われる

追良瀬川サクラマス・サケ放流式

4月14日、日本海側の深浦町追良瀬川親水公園で追良瀬川内水面漁業協同組合によるさくらます幼魚とさけの稚魚の放流式が行われました。

地元の小学生、関係者により、サクラマス幼魚2万尾、サケ稚魚20万尾が放流されました。



老部川サクラマス放流式

6月1日、太平洋側の東通村老部川内水面漁業協同組合サクラマスふ化場人工河川でサクラマス幼魚の放流式が行われました。

地元関係者により2万6千尾のサクラマス幼魚が放流されました。



十和田湖ヒメマス放流式



6月24日、秋田県小坂町にある十和田湖増殖漁業協同組合（小林組合長）ヒメマスふ化場でヒメマスの放流式が行われました。



十和田市立十和田湖小学校と秋田県小坂町立小中学校児童生徒によるひめます稚魚の放流

奥入瀬神社の例祭開催



平成21年5月3日内水面研究敷地内において奥入瀬神社の例祭が白上稲荷神社の松田宮司により取り行われました。

奥入瀬川のサケ・マスの豊漁と安全を祈願する関係者 前列右から奥入瀬川漁協（野月組合長）、奥入瀬川鮭鱒増殖漁協（桜田理事、戸来理事）、内水面研究所（尾坂所長）

（奥入瀬地区漁業協同組合協議会事務局 剣吉さん写真撮影）



平成21年度の内水面研究所の業務内容とスタッフ紹介

生産管理部

生産管理部を紹介します。青森県から(地独)青森県産業技術センターへの移行に合わせ、研究開発部から生産管理部に名称が変わり、新たに庶務事務が加わりました。生産管理部の主な業務は、次のとおりです。

- 水産動植物の増養殖に伴う試験研究、種苗の生産及び供給に関すること
- 魚病の調査、予防等に関すること(内水面及び海面)、水産物の安全確保に係る調査研究に関すること

内水面養殖業の発展に貢献できるよう、次のメンバーにより各種事業、業務を進めていきますので、よろしくお願いします。私は18年ぶりの内水面研究所勤務となります。

県産あゆ資源造成事業を担当します



部長
吉田 秀雄



調査研究部

県の出先機関から地方独立行政法人への移行に際し、部の名称が調査普及部から調査研究部に変わりました。また、研究員が1名増加したこともあり、内水面だけでなく海面のさけ・ますを含めた現場の調査業務を担当することとなりました。調査研究部の主な業務は、次のとおりです。

- 水産資源の開発調査に関すること
- 水産動植物の増養殖技術に関すること
- 水質及び底質の調査に関すること

内水面研究所は通産6年目の勤務となりました。部のとりまとめや予算関連、他の人が担当しない事項の事務処理を行っています。



総括研究管理員兼務部長
木村 大



売れるマス類生産技術開発事業及び魚病を担当します。
養殖技術や魚病相談に応じます。



副部長 主任研究員
榊 昌文

汽水湖である小川原湖と十三湖に関する調査を行っています。
主としてヤマトシジミの生態や資源の推移、増殖に関する仕事をしています。



副部長 主任研究員
長崎 勝康

所内飼育魚の継代及び、種卵、種苗の供給を担当します。



技能技師
沢目 司

内水面研究所に来て初めて生物調査を担当し、2年目になりました。
サクラマス関連調査事業と漁業公害調査指導事業を担当しています。



主任研究員
角 勇悦

KHV病、飼育施設の整備及び管理を担当します。
養殖オリジナル機具の製作が得意です。



技能技師
松田 忍

内水面研究所は初めての勤務となります。
内水面だけではなく、海面を含めたサケ関連調査事業やヒメマス等の生物調査を対象とした十和田湖資源対策調査事業を担当します



主任研究員
相坂 幸二

庶務を担当します。
農林総合研究センター藤坂稲作研究部から転入しました。いつも明るく元気です。



主事
伊藤 ユリ子

内水面の何たるかも知らずに勤務し始め、早4年目となりました。
職員の皆さんの研究を蔭ながら、見守りつつ、楽しく勤務させて頂いています。



非常勤事務員
菊池 美弥子



平成21年度新規事業紹介：『県産あゆ資源造成事業』



生産管理部では、今年度から新規事業としてあゆ資源造成事業を実施しています。この事業の概要を簡単に説明したいと思います。

アユは川魚のなかで最も代表的な魚ですが、鱒ヶ沢町赤石川に生息するアユは黄金色に輝くその体色から「金アユ」と称され、釣り人はもとより一般の観光客からも珍重され、青森県を代表する特産品の一つに数えられています。しかし、その資源量は近年減少傾向となっているため、平成8～9年度に鱒ヶ沢町でアユ種苗生産施設、中間育成施設を整備し稚魚の放流による増殖を開始しました。そこで生産された稚魚は、赤石川はもとより県内各河川へ放流され、内水面漁業の振興と活性化に寄与してきましたが、一方で施設運営面では経費の負担が町財政を圧迫し続けていることから、種苗生産方法の改善や効率化が急務となっていました。

そのため、青森県ではこのあゆ資源造成事業で、効率的な種苗生産方法の確立と安全性の高い冷水病フリーアユ稚魚の生産試験を内水面研究所、県栽培漁業振興協会、鱒ヶ沢町と連携して実施することになりました。

全体計画の中では、内水面研究所でアユ親魚の短日処理による早期成熟試験及び冷水病フリーアユ生産試験を、県栽培漁業振興協会で効率的な種苗生産技術試験を、鱒ヶ沢町で中間育成試験を行う予定です。

2カ年の試験により効率的な種苗生産と、冷水病フリーアユ稚魚の生産により、安心・安全な県産アユ種苗の生産技術を確立し、内水面漁業の振興と地域の活性化を目指します。(吉田生産管理部長)



トピックス：農林水産研究高度化事業・競争的資金[環境変化に対応した砂泥域二枚貝の増養殖生産システムの開発]の中でシジミ貝が採択される！

平成22年度の農林水産研究高度化事業の新たな農林水産政策推進実用技術開発事業(研究領域設定型研究)「環境変化に対応した砂泥域二枚貝の中間育成技術開発」に内水面研究所が全国の関係機関と一緒に応募していましたが、このたび競争的資金に採択されたとの報告を受けました。

「環境変化に対応した砂泥域二枚貝の中間育成技術開発」の内容について説明します。

1. 研究目的
アカガイ、シジミ、ハマグリ、サルボウ等の砂泥域に生息する潜砂性二枚貝類は、生息環境の変化や乱獲によって資源変動が極めて大きいため、生産量の安定化を図るための技術開発を行う。
2. 研究期間 平成21年度から平成23年度までの3年間
3. 研究機関
シジミグループとして(独)水産総合研究センター日本海区水研、水工研、北海道立水産孵化場、茨城県内水面水産試験場、滋賀県水産試験場、島根県水産技術センター、**地方独立行政法人青森県産業技術センター内水面研究所**
4. 研究内容
当内水面研究所は、シジミの種苗放流技術開発の中でシジミ大型種苗生産のための中間育成技術を開発する役割を担っています。



中間育成施設



シジミの種苗



シジミ稚貝

わかりやすい魚病シリーズ (1)

【細菌性鰓病】さいきんせいえらびょう

本病は、ニジマス、イワナ、ヤマメ、アマゴ、ギンザケ、ヒメマス、サクラマス、シロザケなどのサケ科魚類の主として稚魚に発生します。飼育環境によっては成魚でも発生が見られます。稚魚の場合は、病気の流行性は急性で、発生に気が付いたら早急に適切な対応をとらないと大量へい死をもたらすことがあります。病気の症状は、不活発な動きで群れを離れ、流の緩やかな池の壁面や隅付近に集まります。摂餌も著しく低下します。外観症状は、体色の黒化や、鰓に細菌が付着(写真1)することにより粘液が多量に分泌されるため鰓蓋が開き気味になります。症状が悪化すると鰓の癒着(写真2)や棍棒化が見られるようになり、呼吸を妨げられ窒息状態で死に至ります。対策は、早期発見・早期治療が極めて効果的で、病魚を3～5%の食塩水に1分間浸漬、或いは1%食塩水に1時間浸漬する方法が有効です。(榎主任研究員)



写真1



写真2

「写真・文章の一部：新魚病図鑑から抜粋」

地方独立行政法人青森県産業技術センター 設立シンポジウム開催



6月11日青森市アウガ男女共同参画プラザ AV 多機能ホールで地方独立行政法人青森県産業技術センターの設立記念シンポジウムが開催されました。

青森県産業技術センター唐澤英年理事長の開会の挨拶、青森県三村申吾知事の祝辞、佐藤事務局長から青森県産業技術センターの紹介の後、株式会社電通 消費の未来研究部長 四元正弘氏から「変わる消費者にマーケティングはどう応えるか?」という題で基調講演がありました。

この後、「県内産業の進むべき方向と産業技術センターに期待すること」をテーマとして、7人によるパネルディスカッションが行われました。パネリストは、カネショウ株式会社代表取締役社長榎引利貞氏、常盤村養鶏農業協同組合代表理事組合長石澤直士氏、青森県漁業協同組合連合会副会長西崎義三氏、武輪水産株式会社代表取締役社長武輪俊彦氏、コメンテータとして四元正弘氏、コーディネータに国立大学法人弘前大学副学長の加藤陽治氏、産業技術センターの唐澤理事長も参加し、産業界の現状、これから進むべき方向、本県産業界が期待することの3つの視点に分け意見交換が行われました。

東北北海道内水面試験研究連絡協議会開催

7月8日、9日の2日間にわたって、宮城県仙台市において平成21年度東北・北海道内水面試験研究連絡協議会が開催されました。

1日目は、宮城県内水面水産試験場の高橋場長の歓迎の挨拶の後、全体会議の中で、各道県から内水面漁業の研究に係る事例発表がありました。今年の発表は、ワカサギのふ化放流、アユの資源保護、アユ、サケ科魚類の魚病、魚道の機能評価についてで、全ての発表が興味深い内容でした。この後、場長分科会と専門分科会に分かれて、熱心な討議が行われました。

場長分科会では、国及び水研センターに対する要望事項について検討が行われ、(1)サケ科魚類の細菌性腎臓病(BKD)の病原菌の迅速化簡易診断法の開発について、(2)河川生活期におけるサクラマス資源管理効果の把握、(3)継代養殖魚の奇形魚出現原因の解明と出現防止技術の開発の3件を要望することで決定しました。

9月上旬に岐阜県で開催される全国湖沼河川養殖研究会に北日本ブロックから発表する課題には、八郎潟におけるワカサギのふ化放流(指定課題)サケ科魚類養殖におけるせつそう病等の混合ワクチンの開発(自由課題)の2件を選びました。

専門分科会では、協議課題に関する情報交換として、アユ関連が3件、カワウの食害対策が1件、ワカサギ漁業、遊漁が1件、溪流漁場の資源管理が1件、温暖化に関する事例が1件と合計7件の情報交換を行いました。

その他に平成20年度に発生した魚病発生件数、概要、特徴について情報交換を行いました。この後全体会議で両分科会の報告を行い、次期開催県について確認がありました。(来年度は青森県が幹事県となり開催します。)

青森県養鱒協会研修会開催



7月15日当研究所会議室において、青森県養鱒協会(平舘会長)主催の研修会が開催されました。

当日は、会員9名が出席し、青森県農林水産部食の安全・安心推進課の企画調整グループ吉澤主査、安心推進グループの三上技師により、食品トレーサビリティについて、JAS法に基づく食品表示についての講習会を行いました。会員から活発な質問、県担当者との意見交換が行われ、この後、平舘会長が出席した全国養鱒振興協会通常総会の概要報告があり、当研究所から、第34回養鱒技術協議会の報告、平成21年度東北北海道内水面水産試験研究連絡協議会の話題について情報提供を行いました。

編集後記

内水面研究所独自の情報紙として初めて発行しました。今後も継続し、定着することができるのか心配ですが、職員の協力と読者の皆さんの支援を得ながら続けて発行していきたいと考えております。研究所からの一方的な情報提供でなく現場からの意見、トピックス、提案を頂いて、お互いに情報を共有し、内水面漁業の振興に繋げていきたいと考えていますので今後ともよろしくお願いいたします。(尾坂)

4月から7月までの内水面研究所の主な行事

- | | | |
|----|--------|---|
| 4月 | 1日 | 地方独立行政法人青森県産業技術センター発足
(本部において関連行事開催) |
| | 3日 | 十三湖シジミ調査結果報告会(五所川原市中央公民館十三支所) |
| | 7日 | 小川原湖シジミ調査関連打ち合わせ |
| | 8日 | 産技センター第1回所長会議 |
| | 13日 | 白上町内会との水利権覚書に関する打ち合わせ |
| | 14日 | 深浦町追良瀬川サクラマス幼魚・サケ稚魚放流式 |
| | 16日 | 青森県養鱒協会平成21年度通常総会(十和田市焼山) |
| | 17日 | 水産総研との定例打合せ(内水面研究所) |
| | 21日 | 下風呂漁協研究会による施設見学 |
| | 21日 | 県産アユ資源造成事業打合せ |
| | 22日 | システム入力研修 |
| | 24日 | 奥入瀬川クリーン対策協議会総会 |
| | 24日 | 小川原湖湖底改善調査打ち合わせ |
| | 27日 | 青森県水産業普及指導協議会 |
| 5月 | 3日 | 平成21年度奥入瀬神社例祭 |
| | 13日 | 青森県原子力施設環境放射線等監視評価会議 |
| | 13日 | 十和田市俳句の会20名施設・飼育池見学 |
| | 14日 | 平成21年度水産総合研究所(寶陽塾)開講式 |
| | 15日 | 八戸市立是川中学校50名体験学習施設見学 |
| | 15日 | 奥入瀬川アユ稚魚放流立会 |
| | 15日 | 平成21年度青森県漁業士会通常総会・研修会 |
| | 19日 | 県産アユ資源造成事業打合せ |
| | 20日 | 十和田市藤坂小学校30名体験学習施設見学 |
| | 22日 | 産技センター第2回所長会議・企画経営監合同会議 |
| | 27日 | 十和田湖環境保全打合せ(十和田市農林部) |
| | 28日 | 鱒ヶ沢赤石川からアユ種苗搬入(飼育開始) |
| 6月 | 1日 | 東通村老部川サクラマス幼魚放流式 |
| | 2日 | 県養鱒協会研修打合せ |
| | 4日 | 水産総研との定例打合せ(水産総研) |
| | 10日 | (財)海洋生物環境研究所との打ち合わせ(内水面研究所) |
| | 11日 | 地方独立行政法人産業技術センター設立シンポジウム |
| | 12日 | 漁業養殖統計情報収集(東北農政局青森農政事務所) |
| | 12日 | 小川原湖漁場保全打合せ |
| | 17日 | 十和田湖振興対策打合せ |
| | 18日 | 本部事務局長、職員来所 |
| | 18日 | 廃棄物法説明会(十和田市) |
| | 19日 | 水産総研「寶陽塾」塾生4名施設見学 |
| | 22日 | 本部監事来所(研究所現地調査) |
| | 23日 | 第1回企業・生産事業者訪問調査委員会 |
| | 24日 | 十和田湖ヒメマス放流式 |
| | 27日 | 小川原湖漁協協同組合第60回通常総会 |
| | 29日 | 予算編成に関する水産関連機関打合せ |
| 7月 | 1日 | 第1回研究推進委員会 |
| | 2日 | 小川原湖漁業振興打ち合わせ |
| | 3日 | 平成22年度新規事業打合せ(上北地域県民局地域連携部) |
| | 7日 | 平成21年度第1回地域水産試験研究振興協議会(水産庁) |
| | 7日 | 平成21年度全国水産試験場長会第3回役員会(東京都) |
| | 7日 | 第1回人材育成委員会 |
| | 8-9日 | 平成21年度東北北海道内水面試験研究連絡協議会(宮城県) |
| | 10日 | 第34回全国養鱒技術協議会(東京海洋大学) |
| | 14日 | 下北サケ海中飼育担当者会議 |
| | 15日 | 第1回予算担当者等会議 |
| | 15日 | 青森県養鱒協会研修会 |
| | 15日 | 十和田湖ヒメマスに関する勉強会(十和田市農林部) |
| | 16日 | 内水面研究所施設視察(農林水産政策課) |
| | 21日 | 産技センター新年度重点事業レク・第3回所長会議 |
| | 23日 | 小川原湖振興対策打合せ |
| | 24日 | 養殖衛生管理指導(平川市いわなの村) |
| | 27日 | 財務事務システム研修(本部) |
| | 27日 | 内水面研究所全体会議 |
| | 28-29日 | 第70回十和田市中心交会(奥入瀬ろまんパーク) |
| | 28日 | サケ延縄現地説明会(泊漁協・鮫浦漁協) |
| | 28日 | 第2回人材育成研修会 |
| | 29日 | 青森県原子力施設環境放射線等監視評価会議評価委員会 |
| | 29日 | 第2回研究推進委員会 |
| | 30日 | 平成21年度安全衛生研修会 |
| | 31日 | 試験研究公開デー資料準備・最終打合せ |

